

■4 研究に関する事項

第5次長期計画2年目となる2011年度は、同計画の実現に向けた具体的な研究施策の立案・展開を推進した。そのなかでも「強みのある研究と特色ある研究の推進」については、特に「特色ある研究」を「仏教を機軸とした特色ある研究」というより具体的なカテゴリーに定義し直した上で、これら2つのカテゴリーのいずれかに属する優れた研究プロジェクトを学内選定すべく、これまでにない新しい選考制度を導入した。

また、その他の研究事業計画の柱である「研究評価制度」「社会から評価される研究の推進と外部資金の確保」「研究成果の社会に向けた発信力強化」「研究支援体制の整備と新展開」についても順次施策の展開を進めた。

1 強みのある研究と特色のある研究の推進

●「人間・科学・宗教」3つの知の融合

「人間・科学・宗教」という3つの知の融合を目指して人間・科学・宗教総合研究センターのもとで引き続き複数の研究プロジェクトを展開し、2011年度は特にその教育・社会への還元に努めた。また、研究の個性化と特色化を図るために、「強みのある研究」と「仏教を機軸とした特色ある研究」を新たな全学研究高度化推進事業の中に位置付けて公募し、第5次長期計画に基づき構築した新制度の下、社会、自然、学際的各領域の研究プロジェクトの選定をおこなった。

その結果、応募のあった6件のプロジェクトのうち3件のプロジェクト——「グリーンプロセスによる自然エネルギー有効利用材料の製造技術開発」（革新的材料・プロセス研究センター）、「文化財および学術資料の利活用のための次世代デジタルアーカイブ構築」（古典籍デジタルアーカイブ研究センター）、「里山モデルによる持続可能社会の構築に関する総合的研究」（里山学研究センター）——を最終的に学内採択した。また、「革新的材料・プロセス研究センター」と「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」のプロジェクトについては「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」への申請をおこなった。

●強み・特色ある研究の推進や研究拠点の形成と人材育成

2011年度は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業のために既に設置されている「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター」「里山学研究センター」「アジア仏教文化研究センター」において、引き続き活発な研究活動を展開した。

また、「アジア・太平洋地域における人の移動にともなう紛争と和解についての総合研究——市民社会・言語・政治経済を通してみる多文化社会の可能性——」（アフラシア多文化社会研究センター）、「人口減少時代における持続可能な地域づくりのための制度的インフラと地域公共人材育成の実践的研究」（地域公共人材・政策開発リサーチセンター）の2つの研究プロジェクトが「文部科学省私立大

学戦略的研究基盤形成支援事業」に新たに採択され、研究活動を開始した。

このほか、大学間共同利用機関法人人間文化研究機構が実施する地域研究推進事業として2010年度に採択された「現代インド地域研究拠点」についても京都大学や東京大学等と連携しつつ委託研究事業を継続して実施した。また、本学が特に必要とする研究プロジェクトとして「混一・疆理・歴代国都之図研究プロジェクト」の研究活動を引き続き展開した。

2 研究評価制度

●研究評価制度の実施

強み・特色ある研究、付置研究所、研究員制度といった研究関連諸制度の適切かつ公正な研究評価のあり方について継続的に検討をおこなった。

3 社会から評価される研究の推進と外部資金の確保

●科学研究費

競争的外部資金、特に科学研究費の獲得に関しては、複数回にわたる学内説明会の開催、窓口相談体制の強化、申請サポート制度の拡充などを精力的におこなった。この結果、科学研究費の獲得額については、代表者採択分が総額197,257,618円、分担者分（厚生労働省分を含む）が28,502,250円となり2011年度においても1億円以上獲得できた。また、新規採択率については35%となり全国平均30.3%を4.7%上回った。

●受託研究費・奨学寄付金

受託研究及び奨学寄付金については、2011年度は、研究者やRECとの積極的な連携強化の結果、受託研究費230,100,398円、奨学寄付金18,290,000円をそれぞれ獲得することができた。これに伴い、本学は2004年度以降、毎年総額1億円以上の受託研究費・奨学寄付金を獲得しており、研究に係る外部資金獲得額は順調に推移している。

●文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業については、2011年度、「アジア・太平洋地域における人の移動にともなう紛争と和解についての総合研究——市民社



会・言語・政治経済を通してみる多文化社会の可能性―」(アフラシア多文化社会研究センター)が「大学の特色を活かした研究事業」(3カ年)として、また、「人口減少時代における持続可能な地域づくりのための制度的インフラと地域公共人材育成の実践的研究」(地域公共人材・政策開発リサーチセンター)が「地域に根差した研究事業」(3カ年)としてそれぞれ採択され、研究活動を開始した。

4 研究成果の社会に向けた発信力強化

●研究者データベースの構築と活用

学校教育法施行規則等の一部改正を受けて、2011年4月より研究者の学位や研究業績を開示することが義務づけられたことに伴い、これまでの独立行政法人科学技術振興機構のReaD(研究開発支援総合ディレクトリ)に加え、本学独自の研究者データベースを開発し公開した。同データベースは、必要に応じて大学認証評価等の様々な状況で活用できるように開発当初からシステム構築されており、本学の研究成果の発信・広報体制強化の上で重要なツールとして機能することが期待されている。

5 研究支援体制の整備と新展開

●研究支援体制の整備

研究者が能力を十分に発揮できる環境を整備するため、競争的外部資金獲得に関する情報の迅速な収集や提供を含む様々な研究支援制度の拡充を図った。特に科学研究費獲得に資する支援体制の整備に関しては、過去に採択された



研究課題申請書の閲覧制度を導入したり、申請書に対する助言を行うアドバイザー委員会を新設したりするなど、新たなサポート制度を導入した。そうした研究支援体制整備の結果、科学研究費新規申請件数は2010年度に比べて30件増となった。

●基盤研究、萌芽的研究の強化充実

多様化する研究環境に対応し、研究活動を充実させていくために、個人研究費の支出範囲の見直しや様々な研究助成制度について改善策を講じた。また、付置研究所の研究活動を推進し、すべての研究者の研究機会を一定の基準で公平に保証しながら、多様な研究分野における基盤的研究や萌芽的研究への支援・強化に努めた。

龍谷大学が展開する文部科学省私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業 プロジェクト一覧

①里山学研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
里山の現代的利用に関する総合研究	2009～2011	132,135,000

②古典籍デジタルアーカイブ研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
新技術開発による文化財保存・修復科学研究	2009～2011	90,800,000

③アジア仏教文化研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究	2010～2014	170,400,000

④人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
死生観と超越―仏教と諸科学の学際的研究	2010～2012	93,472,000

⑤アフラシア多文化社会研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
アジア・太平洋地域における人の移動に伴う紛争と和解についての総合研究―市民社会・言語・政治経済を通してみる多文化社会の可能性―	2011～2013	105,779,000

⑥地域公共人材・政策開発リサーチ・センター (LORC)

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
人口減少時代における持続可能な地域づくりのための制度的インフラと地域公共人材育成の実践的研究	2011～2013	113,863,000